様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21 年　4 月　9 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006 年～2008 年
課題番号：18520015
研究課題名（和文）　生命倫理的観点からの「老い」に関する日中比較研究

研究課題名（英文）　A Japanese-Chinese comparative study on “aging” in view of bioethics

研究代表者　松井　富美男（MATSUI FUMIO）
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号　60209484

研究成果の概要：

日中両国の老いに関する文献研究や実態調査を行うことで、日本では古神道や能に由来する翁文化が近世期に隆盛をみたものの、その後衰退して、現在では地域社会が老人介護の中心になりつつあるのに対して、中国では儒教倫理に基づく敬老文化の伝統が今でも残っており、家族が老人介護の中心になっていることを明らかにした。これらの諸成果を学術雑誌等で逐一公表すると共に、研究終了年度末には研究成果報告書を作成して関係者に配布し、個人ホームページでも公開した（http://home.hiroshima-u.ac.jp/fmatsui/kaken2008.pdf）。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	600,000	0	600,000
2007 年度	500,000	150,000	650,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	2,000,000	420,000	2,420,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学　哲学・倫理学
キーワード：老い、老人問題、日中、高齢社会、生命倫理

１．研究開始当初の背景

日本は世界に先駆けて高齢社会に突入し世界第一位の長寿国になったし、中国も 21 世紀半ばに高齢社会を迎える。このような事情を受けて、老後生活を安心して送るための年金制度、医療制度等々の社会制度の抜本的改革が急がれている。しかし社会制度をいかに変えるかといった議論だけでは老いの本質は見えてこない。社会にとって、われわれ自身にとって、老いとは何かが明らかにならないかぎり、いかなる高齢化対策も徒労に終わる可能性がある。重要なことは老いをどう考え、老いをどう生きるかといった生命倫理的な問いである。老いというと直ぐに認知症や死などと結びつけられがちだが、このような取り扱いは老いの一面をしか描出できないなので、老いを広義な意味での文化現象として捉え直す必要がある。

２．研究の目的

従来の老い像は、社会学や医学の観点からのものがほとんどである。この観点からだと寝たきりや痴呆などの老い像が中心となり、高齢者に老いの惨めさを喚起させるだけである。それゆえ本研究はこの点を踏まえて、老い文化の観点から、積極的な老い像の創出を目指す。

３．研究の方法

日中両国で老いがいかに受け止められているのかを生命倫理的観点から探究する。まず日中の双方の養老院を訪問して実態調査を行うことで老人問題の現状を具体的に把握して、両国間の相違点を明らかにする。また老いの積極的価値を浮き彫りにするために、中国の敬老文化と日本の翁文化の歴史を調べて、伝統的な老い像がいかに変遷していったのかを明らかにする。そのうえでこれらの諸成果を踏まえて、現代の老い像を析出すると共にあるべき高齢社会の未来像を提言する。

４．研究成果

まず老い文化の観点から、中国には儒教倫理に基づく敬老文化の伝統が残っているのに対して、日本には古神道や能に由来する翁文化が近世期に隆盛をみたものの現在では衰退したことを明らかにした。次に現代の老人問題の質が日中双方において異なることを明らかにした。中国では高度経済成長期頃の日本を反映し、貧困問題が主であるのに対して、日本では「生きがい」の喪失が主であり、養老の「場」についても、日本では徐々に家庭から地域社会に移りつつあるが、中国では依然として家庭中心である。このことは儒教が再評価されつつあることと密接に関連している。

また本研究を通じて日中学術文化交流の機会を得ることができた。研究代表者は、平成 19 年 9 月中旬に中国重慶市の長江師範学院と西南政法大学の各大学において「日本文化の今昔盛衰－老い文化の日中比較研究の手引きとして－」と題する講演、平成 20 年 3 月下旬日に重慶大学において「日本文化における形式美と倫理」と題する講演、平成 20 年 9 月中旬に長江師範学院において「現代日本の老い像」と題する講演を行った。また中国側からは、長江師範学院の王官成教授が平成 20 年 6 月下旬に広島大学文学部で「中国老齢化問題及びその対策」と題する講演、河南大学の趙国権教授が平成 21 年 2 月初めに「中国の老人観」と題する講演を行った。なお、本研究は中国側でも高く評価され、次期研究に繋げることができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5 件）

1. 趙国権（王艶玲訳）「古代中国の敬老文化に関する研究」『ぷらくしす』　査読有　通巻第 10 号　2009 年　71-76 頁。

2. 王官成・王艶玲「中国の高齢化問題とその対策」『ぷらくしす』　査読有　通巻第 10 号　2009 年　77-79 頁。

3. <u>松井富美男</u>「老いの研究－生命倫理の観

点からの老い像を求めてー」『広島大学大学院文学研究科論集』査読無 第 68 巻　2008 年　1-14 頁。

4. 松井富美男「日本人の老い観ー翁文化の発生ー」『総合保健科学　広島大学保健管理センター研究論文集』査読有 第 23 巻 2007 年　45-54 頁。

5. 松井富美男「日本人の老い観ー老い文化の底流を求めてー」『広島大学大学院文学研究科論集』 査読無 第 66 巻 2006 年 17-33 頁。

〔学会発表〕（計　5 件）

1. 趙国権「中国の老人観」西日本応用倫理学研究会、2009.2.3、広島大学文学部

2. 松井富美男「老いの研究ー生命倫理的観点からの老い像を求めてー」西日本応用倫理学研究会、2009.1.20、広島大学文学部

3. 松井富美男「現代日本の老い像」中日老人問題の国際学術セミナー、2008.9.15、長江師範学院、中国

4. 松井富美男「日本人の老い観（２）ー神人からオキナへー」西日本応用倫理学研究会、2006.10.30、広島大学文学部

5. 松井富美男「日本人の老い観（１）ー老い文化へのノスタルジー考ー」西日本応用倫理学研究会、2006.6.26、広島大学文学部

６．研究組織

(1)研究代表者

松井　富美男（MATSUI FUMIO）

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：60209484

(2)研究分担者

(3)連携研究者

(4)研究協力者

王　官成（WANG GUANCHENG）

中国・長江師範学院・教授

趙　国権（ZHAO GUOQUAN）

中国・河南大学・教授

王　艶玲（WANG YANLING）

中国・長江師範学院・講師